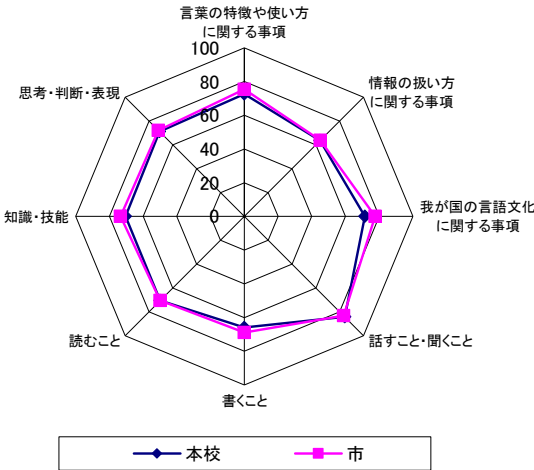


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.6	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	63.6	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	71.5	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	84.2	83.2	81.6
	書くこと	65.9	68.9	58.6
	読むこと	70.6	70.5	65.7
観点別	知識・技能	70.4	73.4	66.2
	思考・判断・表現	71.1	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

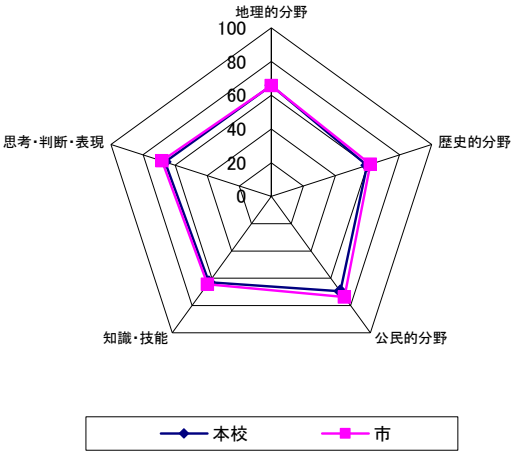
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市の値より2.8ポイント低いが、参考値と比較すると4.3ポイント上回っている。 ○敬語の正しい使い方について、おおむね身に付けている。 ●漢字の読み書きの問題については、特に「緩(ゆる)やか」「催(もよお)し」など訓読みを理解していない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章を音読する機会を増やし、漢字を正しく読む力を日頃から身に付けさせる。 ・漢字のテストを定期的の実施し、書く力を身に付けさせる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の値とほぼ同程度である。参考値と比較すると5.6ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、そこから論理的な文章を組み立てる力に課題が見られる。	・説明的文章においては自作のワークシートを活用し、内容を的確に把握したり段落同士の関係を捉えたりする学習を行う。 ・図やグラフなどを正しく読み取り、筋道を立てて考え論理的な文章を組み立てる表現力を育成する。
我が国の言語文化に関する事項	市と比較すると6.1ポイント下回っているが、参考値を2.4ポイント上回っている。 ○現代語訳を手掛かりに簡単な古文の意味を理解したりする力はおおむね身に付いている。	・教科書で扱っている古文以外の文章も紹介し、親しませるようにさせる。 ・古文に頻出する重要な古語を取り上げ、意味の理解につなげる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は領域の中で最も高い値を示しており、市や参考値どちらも上回っている。 ○考えが伝わるように表現を工夫する力が身に付いている。	・「話すこと・聞くこと」の単元以外でも、話し合いや発表を積極的に取り入れ、相手を意識した話し方の工夫を考えさせる。 ・発表やスピーチの学習では、互いに感想を述べ合い、相手に正しく効果的に伝わる話し方の工夫について考えさせる。
書くこと	平均正答率は市の値より3.0ポイント低いが、参考値と比較すると7.3ポイント上回っている。 ○条件に従って文章を書く力はおおむね身に付いている。 ●グラフから読み取ったことを数値を挙げて書く力に課題が見られる。	・意見文に関しては、説明的文章の学習の中でも効果的な構成について学習し、さまざまな課題に対応して書くことができるようにさせる。 ・情報を正確に読み取り、求められるテーマに正しく応じて書くことができる力を身に付けさせる。グラフの中でどの数値に注目するか、それをどのように文章化するかなどを丁寧に指導する。
読むこと	市の平均正答率とほぼ同程度であり参考値より4.9ポイント上回っている。 ○物語の展開の仕方を捉える力はある程度身に付いている。 ●文章の表現の仕方を評価する力に課題が見られる。	・文学的文章の読解においては、情景や心情を丁寧に追いつながり、内容を把握し読み味わうようにさせる。 ・文章の理解を深めることで、読むことの面白さに気づかせ、様々な事象への新たなものの見方・考え方を養う。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.8	65.7	56.7
	歴史的分野	59.7	61.7	54.8
	公民的分野	69.5	73.8	73.3
観点別	知識・技能	63.0	64.5	59.5
	思考・判断・表現	66.3	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

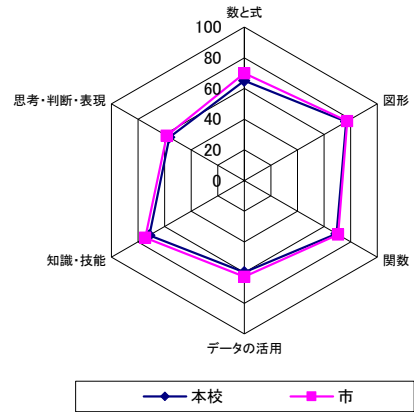
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	正答率は市の平均値と同程度だが、参考値と比較すると9.1ポイント上回っている。 ○選択問題は8問中5問が市の平均を上回っており、基礎的な知識の定着が伺える。 ●九州地方の農業の特色について、資料に着目して考察し、表現する問題は正答率が50%を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・知識をもとに資料と結びつける力を育成するために、今後も複数の資料を比較し、情報を読み取る活動を授業の中で意識的に取り入れていく。 ・「日本の諸地域」の分野では、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる活動を取り入れ、資料活用能力と表現力を身に付けさせる。
歴史的分野	市の平均と比較し、正答率は2.0ポイント下回った。 ○年代の表し方を問う設問では、正答率が市の平均を4.6ポイント上回った。 ●正答率が市の平均を上回った設問は14問中4問に留まり、歴史分野の基礎的な知識の定着に課題が見られる。 ●江戸時代の打ちこわしについて問う設問は正答率が23.2%に留まった。	・歴史的な見方・考え方を働かせる土台となる知識の定着のために、小テストや単元末テスト等を継続的に行う。 ・人名や出来事の名称をただ暗記するような学習にさせるのではなく、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けるといった視点を育む授業の工夫を行っていく。
公民的分野	市の平均と比較し、正答率は4.3ポイント下回った。 ○フランス人権宣言の主な内容を問う問題の正答率は90.7%で、市の平均を1.4ポイント上回った。 ●公共の福祉について、資料を参考にして自分の言葉で表現する設問は、市の平均を10.2ポイント下回った。	・人権思想の歴史など、歴史的分野と公民的分野において相互に関連する学習内容について、既習の知識を生かしながら多角的な視点で捉えることができるような授業構成の工夫を行う。 ・考えたことを自分の言葉で書く力を育成することが課題である。授業の中で、本時の学習課題に対するまとめを書く活動や、分かったことを説明する活動をさらに取り入れていく。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	65.0	69.9	66.4
	図形	76.6	77.4	68.1
	関数	69.3	70.6	60.8
	データの活用	59.8	62.7	54.2
観点別	知識・技能	71.4	74.6	70.3
	思考・判断・表現	56.5	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

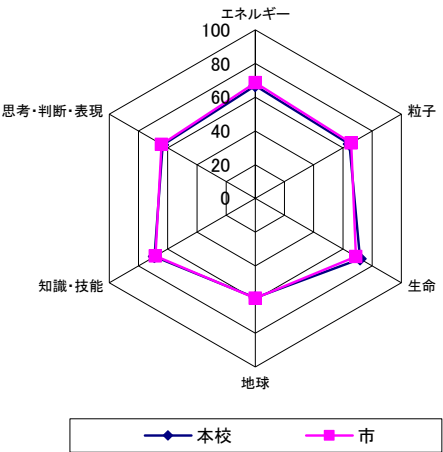
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市の平均より低い。 ○正負の数の計算問題では、市の平均を1.3ポイント上回っている。 ●平方根の大小を問う問題や、乗法の公式を利用した計算問題は、市の正答率より低くなっている。3年生の学習内容の問題に課題が見られる。	・計算問題に関しては、1, 2年の内容は市の平均と比べてもそれほど変わらないが、3年生の内容が不得意と見られる。教科書の問題だけでなく、プリントなどを利用して問題を解く機会を増やしていくようにする。また、与えられた文章問題に対して、連立方程式を立式するという問題の正答率が低い。読解力が低い、問題の意味がよく理解できていないという原因が考えられる。問題を読む際、聞かれていることに下線をひくなど、授業中に促す。
図形	平均正答率は、市の平均よりやや低いものの、7割を超えている。 ○おうぎ形の面積を求める問題では、市の平均より高い。 ●直方体の直線の位置関係の問題や平行移動した距離の問題は、市の平均より低くなっている。問題の語句の意味を正しく理解していないという原因が考えられる。	・直線や面の位置関係、図形の移動などの時に学んだ重要語句の意味を、立体模型やデジタル教材を活用して理解を深められるようにする。また、三角形の合同証明は、苦手な生徒が多い分野ではあるが、論理的思考を養う上でも重要な分野であるため、順を追って丁寧に説明していくとともに、自力で証明が書けるようになるまで書いてみるよう促す。
関数	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○比例の関係とx, yの値の変化の関係の問題では、市の平均より高い。 ●1次関数のグラフとx軸, y軸で作る三角形の面積を求める問題は、市の平均より低くなっている。グラフと座標の関係が理解できておらず、座標が求められない生徒が多いと考えられる。 ●料金が安くなる店を、グラフから読み取って説明する問題は、市の平均より低くなっている。グラフをどのように読み取ればよいか理解できていないと考えられる。	・式や表、グラフの相互関係について、それぞれを照らし合わせながら理解を深められるようにする。 また、単純に式やグラフを求める問題の正答率は高いが、条件などが加えられると低くなる傾向がみられる。補助教材やプリントなどを使い、演習問題を多く解くことで、様々な問題に対応できるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ○度数折れ線を読み取り、その特徴をもとに説明する問題では、市の平均を7.3ポイント上回っている。 ●箱ひげ図を利用して考える問題は、市の正答率より低くなっている。箱ひげ図の読み取り方を理解していない生徒が多いと考えられる。 ●4枚のカードから2枚取り出して2けたの整数を作るときの確率の問題は、市の正答率より低くなっている。問題文の意味がよく理解できていないと考えられる。	・自分で箱ひげ図を確実に書けるようにしつつ、箱ひげ図の特徴を理解したり、読み取り、自分の考えを説明できるように、また、四分位範囲など重要語句の意味や計算を、確実にできるよう演習問題の機会を増やし、指導していく。条件付きの確率の問題も正答率が低いので、様々なパターン問題を解き、対応できるようにする。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	66.9	68.7	63.6
	粒子	64.5	65.7	64.2
	生命	71.7	68.9	64.4
	地球	58.9	59.2	54.3
観点別	知識・技能	69.0	68.4	64.4
	思考・判断・表現	63.5	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

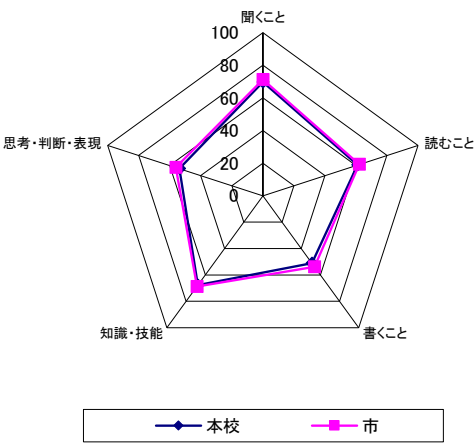
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○加速する物体の運動の実験では、記録テープの処理の仕方を理解しており、斜面の角度と加速の関係も市平均を上回っている。 ●音の伝達媒体の理解が不足している。電流による磁界の発生の理解が不足しており、磁界の向きについてもあやふやである。	・実験を行う際に、実験から結果・考察を求めさせるだけでなく、グラフなどの結果から実験で行った現象を振り返らせ、現象がどのように表されているのか関連付けさせる指導に重点を置く。 ・公式を複数使って解くような問題演習を重点的に行う。
粒子	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○水の電気分解において追加実験の必要性を理解しており、発生した気体の性質を特定することは市平均より大きく上回っている。 ●液体の混合物の沸点について、沸騰前から蒸発が起きていることの理解が不足している。水たまりの蒸発等で理解してほしい。	・化学変化の化合や酸化、分解や還元等、実験での結果・考察を深めていくこと。知識の定着を図るために繰り返し授業で取り扱う。また、化学反応式の仕組みを理解させるために繰り返し問題演習を行う。 ・化学変化の知識、実験器具の知識、実験から考察を繋げることに課題がある。実験を行った際に、変化だけでなく、使用した器具の名称や目的、考察の検討に重点を置く必要がある。
生命	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○ルーペの使い方や花のつくりの高い正答であった。消化酵素のはたらきや指示薬の役割について高い正答率で市平均を大きく上回っている。生殖細胞と体細胞の染色体数の理解している。 ●動物の胚の成長過程の理解が不足している。	・単語を覚えることはもちろんだが、その意味やしくみを理解できるように、利点や特徴も併せて習得できるように指導する。 ・遺伝の仕組みを知識として理解させるのではなく、様々な問題を通して、どのように考えて組み合わせていくのかの方法を定着させる。 ・生物(動物)による実験が制限されていることが残念である。
地球	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○気象要素や天気図から観測地の特定は市平均を大きく上回っている。火山岩と深成岩の成り立ちのちがいを組織にちがいができることを理解している。 ●温暖前線と寒冷前線との断面のようすの理解が不十分である。大地の変動は長い年月の末の変化なので理解が難しいと思われる。市平均を大きく下回っている。	・気象の分野では気象要素のデータを気象庁のWEBサイトを利用し観測カードに記録する等、実習から学びが深まることと思われる。 ・火山の分野では、火成岩のプレパラートの利用や実際の試料の観察等手に取って実感することで理解が深まることと思う。それぞれのに対して整理しながら学習を進めるようにする。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.7	71.2	65.4
	読むこと	61.0	62.1	56.9
	書くこと	51.1	53.8	42.5
観点別	知識・技能	67.7	68.8	64.7
	思考・判断・表現	53.8	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○大問番号1の問題でもっとも正答率が高い傾向にある。それには英文を聞き、絵を見て適切な答えを選ぶという内容であり、英文を読むというより視覚での理解が優位にあることが分かる。 ●正答率をもっとも低かった問題は、大問5で、一定の長さの音声メッセージの英文を聞いた後に、その内容を踏まえて返事となる英文を答える問題だった。内容を聞き取りながら、要点を捉え、自分の考えを英文で答えられていないことが分かる。	・リスニング力を高める必要もあるため、一定の長さの英文を聞く時間をさらに取り入れたり、ALTの授業でも教師同士の発話量を増やし、英語を聞く時間をさらに増やす。 ・聞いている間に、大切な情報を落とさずにメモを早くとる指導も継続して行う。 ・教科書や補助教材以外にも、リスニングの資料を取り入れ、内容を聞きとる練習を繰り返し行う。 ・日常の出来事に関心を持ち、自分の意見や考えを英文で答えられるよう演習の機会を増やす。
読むこと	○大問番号6の問題でもっとも正答率が高く、対話文の情報を読み取り、文構造や文法事項を理解した上で、空欄に適切するものを選ぶという内容である。特に高いものは、授業で繰り返し演習した文法事項のものであり、反復練習が基礎学力の定着につながる事が分かる。 ●大問番号8の問題でもっとも正答率が低く、メールを読み、その内容から適切な語句を選ぶ問題であった。さまざまな種類の英文の内容を把握することが困難であったと考えられる。	・基礎学力の向上のために、基本文の反復練習を継続する。 ・ある一定の長さの英文を限られた時間で読み、大意をつかみ概要をまとめる学習をさらに多く取り入れる。 ・教科書や補助教材以外にも、長文読解のための資料を取り入れ、内容を把握する練習を継続して行う。 ・限られた時間で情報を把握するためのテクニックを紹介し、時間内で長文を読ませる練習をさらに確保する。
書くこと	○大問番号9の問題でもっとも正答率が高い傾向にある。基本的な文の語順を理解して、正しく並べかえることができる。SV00の文型の理解度が高いことが分かる。 ●大問番号10の問題でもっとも正答率が低い傾向にある。対話の流れに合った英文を正確に書く問題で、答えを見て何をたずねているのかを想像することが困難であると考えられる。	・既習の文法事項を応用して、場面に応じた表現を使い分けられるよう、授業で英作文を作る時間をさらに確保する。 ・生徒の学習意欲を高め、基礎的な語彙力や表現方法をつけるために、単語テストを継続して行う。 ・英作文を作る上での基礎的な表現方法を身に付けて、問いかけに対して適切に即興で答えを考え正しく書く活動を積み重ねる。

宇都宮市立鬼怒中学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
語彙力の向上	・朝の活動において、週一回程度、語彙力を向上させるための問題集に取り組ませる。 ・国語科だけでなく、他教科においても、語彙を増やし、読解力を高めるための指導の工夫を行う。	・国語科の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均点が市に平均と比べて2.8%低い。 ・3学年ともに、市の平均に比べて、読書に費やす時間が短い傾向がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・市の平均点を下回る教科が多く、基礎的な学力に課題があることが明らかになった。学力の向上のためには、語彙力を土台とした読解力を、教科横断的な取り組みによって実現することが重要であるから、来年度も語彙力を着実に身に付けられるよう支援していく。